

サロンそんぼの家

主催：神大寺地区社会福祉協議会
共催：そんぼの家 横浜神大寺
横浜市片倉三枚地域ケアプラザ
神大寺地区民生委員児童委員協議会
神奈川県社会福祉協議会



神大寺地区に、有料老人ホーム「そんぼの家横浜神大寺」（以降、「そんぼの家」）の食堂を会場とした地域サロンがある。区内初となる有料老人ホームでのサロン開催となっている。毎月第1木曜日の13時30分から15時まで、お茶やお菓子とともに、会話や演奏などの催し物を楽しみ、施設の入居者と地域住民が交流している。

丘の上にもサロンを



サロンで談笑する利用者の方々

神大寺地区は起伏のある丘が多いエリア。この地区にはすでに丘の下で開催されている「ふれあいサロン神大寺」（神大寺北町町内会館で開催）があったが、丘の上の住民が利用しづらく、運営をしている神大寺地区社協としては「丘の上にもサロンがあれば」という思いがあった。

一方、会場となっている「そんぼの家」では、施設として「地域に貢献できること」を検討していたこともあり、双方の思いを片倉三枚地域ケアプラザが取り持ち、平成29年6月に「サロンそんぼの家」は始まった。

運営は、地区社協を中心に、「そんぼの家」のスタッフ、民生委員らが中心に関わっている。

「地域の人と施設の入居者さんが毎月の交流を楽しみにしてくれています。みなさんが喜んでくれると、こちらももっと頑張ろうと思います」と、神大寺地区社協会長の高木さんは笑顔で話す。



地区社協会長の高木さん

みんなが楽しむ毎月のイベント



有料老人ホーム「そんぽの家」の山口ホーム長（左）と平川副ホーム長（右）＊1月末時点



吹奏楽アンサンブル「カクテルタイム」

利用者は毎月、地域住民と入居者をあわせて60名ほどが利用している。「高齢者施設は入居者や施設の様子がわかりづらく、地域の中で隔離されがちです。このサロンが施設を知っていただくきっかけになっています」と話すのは「そんぽの家」副ホーム長の平川さん。サロンの開催により近隣住民にとって「そんぽの家」は、地域に開かれた施設になってきている。

毎月のサロンでは、演奏会やビンゴゲームなどのイベントを実施し利用者が楽しむ工夫をしている。1月のイベントは吹奏楽アンサンブル「カクテルタイム」の昭和歌謡曲の演奏で会場を盛り上げていた。今後は、近隣の小・中学生やかめっこなどの子どもと交流する企画も考えている。

また、参加するごとにスタンプを押す「お楽しみカード」も今年度から始め、利用者に好評だ。

なお活動資金は、区社協のふれあい助成金と毎月の利用料を充てている。

地域活動の継続には若い世代の力が必要！



お茶やお菓子の用意をするボランティア、民生委員のみなさん（中央が民生委員の北村さん）

【サロンそんぽの家】

開催日時：第1木曜日 13:30～15:00

参加費：100円

会場：有料老人ホーム「そんぽの家 横浜神大寺」

サロンは今年で3年目を迎えるが、その道は順風満帆ではなかったようだ。当初は地域住民と施設の入居者との距離があり、交流を進めようと座る席を指定したところ、地域住民の反発を受けたこともあった。

その日のサロンで起こった問題点は、終了後に行う振り返りで検討し、少しずつ改善してきた。居心地の良いサロンを目指して、地道な話し合いの積み重ねが今のサロンにつながっている。

サロン運営を担っている方々は、若い世代の担い手を育てていく必要性を感じている。その一人である民生委員の北村さんは「地域の活動を継続するには、次の40代50代の担い手の力が必要です。担い手を育てることが今の課題になっています」と言う。

地域の活動は、地域愛に満ちた住民の方々に支えられている。地域で活躍する人材を育てるには時間がかかる。時間がかかるからこそ、担い手不足への対策は、待ったなしの時期にきている。